

猿橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

「自己肯定感」と「自己有用感」

校長 澁谷 一男

授業中、いつものように教室を回る。扉を開けると、ひんやりとした冷気が心地よい。今月初め、各教室にエアコンが設置されたのだ。学校全体がしっとりと落ち着いて感じられるのは気のせいではあるまい。

前号で「自己有用感」について述べた。これとよく似た言葉に、「自己肯定感」がある。

「自己肯定感」とは読んで字のごとく、自分の価値や存在意義を肯定できる感情を言う。「自尊感情」と同じ意味で使われる場合もある。自己肯定感の高い人は、ありのままの自分を認めることができ、他者も認めることができる。自分に自信がもてるから困難も乗り越えられる。是非、子どもたちに育てたい感情だ。

一方、「自己有用感」は、誰かの役に立っている、貢献している等、自分が有用であると思える感情を言う。誰かに必要とされた、人に喜んでもらえたなど、他人の存在なしでは生まれない感情であり、この点で自己肯定感や自尊感情とは異なる。

ところで、自己肯定感が高ければ自己有用感も高いかといえば、必ずしもそうとは限らない。「自分は能力があるのに、周りが認めてくれない。うまくいかないのは、親や学校、周りの人たちが悪いからだ。」と、すぐ他人に責任転嫁する人がいたとする。これは、自己肯定感だけが低い例だ。

また、走るのが得意な子がリレーの選手に選ばれたとする。「自分はクラスで一番足が速いので、クラスの代表として選手に選ばれた。だから、みんなの期待に応えられるように頑張りたい。」これは、他者から認められ、期待されているという自己有用感を伴った自己肯定感である。単に「クラスで一番足が速い」という自信ではなく、他者のために自分の力を発揮したいという思いに高まっている。本人にとって「クラスで一番」かどうかは、さほど重要ではなくなっているとさえ言える。

このように、自己肯定感を高めるには、まず、自己有用感を高めることが大切だ。人の役に立つ、相手に喜んでもらう、子どもたちにはそんな体験を多く積んでもらいたい。

長い夏休みが始まる。家庭での家事分担、地域行事への参加、自己有用感を高める絶好のチャンス到来である。

